

来社して面接はもう古い!? スマホで面接する時代

売り手市場である今、トラック・バス事業者は求職者から選ばれる立場にあります。優秀な『人財』を確保していくためには、スピード感を持って求職者と接触し、面接、採用につなげていかなければなりません。今回は、面接手段のひとつとして注目され始めているスマートフォンを使った「オンライン面接」について紹介します。



スピード勝負に有効な、オンライン面接

面接は、応募者に会社に来てもらい実施することが一般的です。事務所内に面接できるスペースがなければ、近くの会議室を借りたり、喫茶店で実施したりするケースもあるでしょう。

いずれにせよ、これまでは直接会って面接をしてきました。しかし、最近はネット環境やスマートフォン(以下、スマホ)の普及により、直接会わずにオンライン上で面接を実施するケースが出てきました。有料のオンライン面接専用ツールもありますが、スマホのアプリでも十分に使えるものがあります。ビデオ通話が

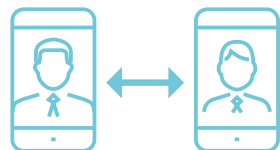
可能な「Skype(スカイプ)」をはじめ、無料で利用できるものがあるので初期投資なしで始められます。

今や採用活動はスピード勝負です。いかに早く応募者と接触をし、採用・入社まで結び付けるかが重要なため、「オンライン面接」は有効なのです。もちろん、オンライン面接だけで最終合否まで決める必要はなく、一次選別において初回接触を早める手段として活用すると良いでしょう。オンライン面接で良い人材だと判断すれば、実際に会って面接を実施し、最終合否を出します。

求職者と企業の双方にメリットがあるオンライン面接

オンライン面接はスマホさえあれば実施できるので、すぐに取り組むことが可能です。

- ・時間と費用を削減できる
- ・優秀な人材に対して早期にアプローチができる
- ・採用の閾口を拡大できる
- ・面接の時間と場所が自由に設定できる



求職者のメリット

- まずは話だけでも聴いてみようという「応募ハードルの低下」
- 面接会場に向かうまでの「金銭的/時間的負担の軽減」ができ、「居住場所による地理的デメリットが減少」
- 時間の融通がききやすく「在職中の転職活動が可能」
- UターンやIターンを考えている場合、現地まで行かずに面接ができ「交通費などの負担が軽減」



企業のメリット

- スマホでスピーディーに面接ができるので、「他社に先駆けて求職者と接触できる」
- 来社の必要がないため事務所以外でも面接ができ、求職者の都合に合わせて「日程の調整がしやすい」
- 社宅制度や社員寮がある場合、地方に求人広告を出し「離れた土地の人材を確保できる」
- 無料のビデオ通話アプリを利用でき「初期投資なしで開始可能」



運送業界でも導入の動き

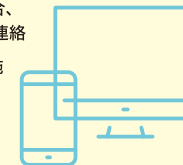
A運送会社では、ホームページに「スマホ面接実施中!」という内容を打ち出し、面接に応募希望があれば、LINEのテレビ電話機能またはFaceTime※、Skypeのいずれかで面接を行います。どのツールで実施するかは、応募者が選択。空いた時間に気軽に面接でき、服装の指定もなくすることで応募のハードルを下げています。面接の流れは右のとおりです。

スマホやパソコンを使ったオンライン面接に取り組んでいる企業は、まだまだ少ない印象です。しかし、多くの人がSkypeやLINEを使える環境にあるため、今後は「一次選考はまずはオンラインで」というのが当たり前になってくるかもしれません。

※iPhoneやiPadなど、Apple製品同士で無料ビデオ通話ができるアプリ。

スマホを活用した面接の流れ

- ① ホームページからスマホ面接の申し込みを受ける
- ② 会社からスマホ面接の実施日時を連絡
- ③ スマホ面接を実施
- ④ 合否の連絡。合格の場合、実際に来社する日時を連絡
- ⑤ 来社し、最終面接を実施
- ⑥ 最終合否連絡



求職者にも企業にもうれしいオンライン面接で スピーディーに優秀な人材を確保

河内谷庸高 (かわちや のぶたか)
船井総研ロジ株式会社 物流ビジネスコンサルティング部所属、部長、エグゼクティブ経営コンサルタント。
運送会社・物流会社向けにマーケティング戦略の立案から販促・営業企画、新規事業参入等、業績アップコンサルティングに従事。近年はドライバー採用・定着・育成をメインテーマに活動。ホームページを核とした求人方法で、エリアや企業規模に関わらず、今の時代でもドライバー採用に困っていない運送会社を各地で輩出している。物流企業経営研究会「ロジスティクスビジネス経営研究会」を主宰。